“前に踏み出す力”を引き出す心理学教育

—「キャリア心理学セミナー」の授業実践から—

○八城薫¹・古田雅明¹・香月菜々子¹・向井敦子¹・西河正行（非会員）¹

⁽¹⁾大妻女子大学 人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

キーワード：心理学教育，社会人基礎力，キャリア教育

Report on how the career psychology programme encourages students to develop "Ability to Step Forward"

Kaoru YASHIRO¹, Masaaki FURUTA¹, Nanako KATSUKI¹, Atsuko MUKAI¹, Masayuki NISHIKAWA^{1, #}

⁽¹⁾Faculty of Human Relations, Otsuma Women's Univ.)

Key Words: Psychology education, Fundamental competencies, Career education

問題と目的

大妻女子大学人間関係学部人間関係学科社会・臨床心理学専攻（以下、本専攻と略す）では、学生の生涯発達を視野に入れたキャリア支援を目的とする必修科目「キャリア心理学セミナー」（3年次）を、2015年度後期に初めて実施した。

本セミナー開講の背景には、キャリア支援が大学教育で重視されるようになった動向がある。本専攻でも学生の大半は心理学を学んだ後、一般企業に就職する。その実態の前に、心理学学習が学生のキャリアにどのように貢献しているのかについて、キャリア教育の観点からカリキュラムの見直しを行った（西河ほか、2013）。その結果、専攻学生の評価として論理的思考力、コミュニケーション力、ビジネス・スキルは身に付いたと評価する割合が高かったが、自信や責任感、積極性、主体性についての評価は低かった。つまり、心理学専門教育をコア科目とする本専攻のカリキュラムは、社会人基礎力（経済産業省）のうち「考え抜く力」「チームで働く力」を具体化した3つのジェネリック・スキル（論理的思考力、コミュニケーション力、ビジネス・スキル）の育成に対応するものの、“前に踏み出す力”の養成が喫緊の課題であることが浮き彫りにされた。

以上のような実証研究と文献研究、実際のキャリア教育現場の視察などを重ねた末、本セミナーの目標の達成に向けて、3つのプログラム「キャリア形成の自覚を高めて自信を付けさせる（Ⅰ期）」「マナー講習、業界・企業研究など、社会人になるための準備教育を行う（Ⅱ期）」「同専攻の卒業生（社会人）に対してインタビュー調査を実施する（Ⅲ期）」を考案した。Ⅰ期では、大学3年間の専門的学びを通して学生が身に付けた3つのジェネリック・スキルの達成度を自己評価させ、これまでの専門的学びの中で身に付けたスキルを自覚させるワークを行った。Ⅱ期では、マナー講習、業界・企業研究など、社会人になるための具体的な準備教育を行うことで、積極的、主体的に行動するための土台作りを行った。Ⅲ期は、Ⅱ期での取り組みの実践として学生たち自身が卒業生に対してインタビュー調査（Project Based Learning）を実施することを企図した。具体的に学生は本専攻の卒業生（社会人）にインタビュー協力の交渉からインタビューの実施までを体験し、インタビューで得られた情報の整理、調査結果の発表を行った。ここでの目的は社会人としてのマナー実践経験に加えて、卒業生の生き方をロールモデルとして①将来のキャリアを具体的にイメージさせること、②自ら求めるキャリアを実現するためこれから身に付けるべき力は何かを明確化させること、③大学生活後半および社会人生活を見据えた実践目標を具体化させることである。本稿では、Ⅲ期の調査結果の発表を通して本セミナーの授業設計の有効性について探ることを目的とした。

方 法

本セミナーの受講生97名を1グループ5～6名の19班に分け、19名の同専攻卒業生にインタビュー協力の交渉と調

査を実施させた。そのインタビューの成果として報告書（A4 1枚）を作成し、「1グループ5分程度で、同世代の皆さんが今すべきこととして伝えたい大切な事を2～3つに絞って、ポイントを簡潔にプレゼンしてください。」と伝え、発表スライド作成と合わせてプレゼンを実施することを求めた。成果報告会は、『見た、聞いた、知った—今、私たちの人生に必要なことは何か』と題して2016年1月12日・19日の2回に分けて実施された。本研究では、この成果報告で各グループが提言した内容を、本セミナーの取組みを通して学んだこととして分類・整理、集計することで、このプログラムの有効性を検討した。

結 果（学生による成果報告内容）

表1は、インタビュー調査を通して、自分たちが「今、すべきことは何か」というテーマで発表した提言内容を整理したものの一部である。その結果、「自分を大切に、自分らしく生きること」「人間関係を大切にすること」「ポジティブに、前向きに」といった生き方や生きる姿勢について多く語られていた。

表1 学生たちが成果報告会で提言した内容分類（N=51）

内 容	件数(%)
◆生き方、生きる姿勢について	
・自分らしく生きる、自分を大切に	
・人間関係を大切に	21
・心がけるべき姿勢・態度	(41.2)
・臨機応変さ、ポジティブに、前向きに、積極的に行動すること、	
今を「楽しむ」ことが一番！、どんな経験でも自分の糧にする など	
◆企業選択についてのアドバイス	
・企業・業種に対する偏見や先入観に捉われない	13
・会社によっては入ってから、自分に合う部門を見つけることが出来る	(25.5)
・職場の雰囲気を見極める（上下関係、女性の働きやすさ、スキルアップなど）	
・結婚した後も仕事復帰できる会社選び など	
◆今、すべきこと（具体的なこと）	
・自己分析（自分の限界を知る）	12
・自己紹介書を早めに作成する	(23.5)
・就活講座やGD・模擬面接に参加する など	
◆大学時代の学びを大切に	
・学生生活、心理学が社会において役立っている など	5
	(9.8)

考 察

本セミナーの取組みを通して、学生たちは就職先を勝ち取るための具体的なテクニックよりも、生き方、企業選択、自己分析を大切なことと捉え、その背景にある心理学学習、学生生活に目を向けることが出来たようであった。中でも学生たち自身から「前向きに、積極的に行動する！」という提言がなされた点が重要であろう。引き続き、本セミナーの“前に踏み出す力”育成への寄与などを分析する予定である。

引用文献

西河正行他（2013）．「キャリア心理学セミナー」に関する授業研究 第2報—学生評価から見た専攻コア・カリキュラムの教育効果—、大妻女子大学人間文化研究所年報 人間生活文化研究 23, 209-215.